

この町には  
「芸術」があふれている  
そのことを伝えられる  
人になりたい

**大**学生になって、わたしの中で大きく変わったことが一つあります。それは「芸術とは何か」を深く考えるようになったことです。

わたしは今、埼玉県の武蔵野音楽大学に通い、芸術や音楽について学んでいます。大学に入る前は、ピアノの前に座り、ただがむしゃらに練習を積んでいました。そのころは、音楽を「感覚」としてしかとらえておらず、ピアノが好きという気持ちだけでわたしの音楽は成立していました。

しかし、ある先生との出会いがわたしに変化をもたらしました。芸術というものの見方が変わったんです。その先生は、ピアノの技術指導だけではなく、音楽家の人生・歴史・哲学などを説いてくれ、自分の生き方はどうあるべきなのかを教えてくださいました。「自分はなぜピアノを弾いているのか?」「そもそも芸術・音楽とは何なのか?」。先生と出会い、これまで思いもしなかった疑問がいくつも自分の中に生まれました。でも疑問に対する「これだ」という答えは、今のところ浮かんできません。はやくわたしだけの芸術感を見つけたくてあせっていた時期もありましたが、あせるほどに答えは遠ざかるような気もしていました。そこでわたしはこう考えるようにしました。「わたしの人生は『芸術とは何か』をつきとめるための旅」なんだと。いつかその答えが見つかるまで、ずっと、芸術や音楽を追求していきたいと思っています。

**あ**るとき先生は、わたしにこんなことを話してくれました。「芸術とは、自然を再構築したもののなんだよ」と。先生は東京生まれの東京育ち。自然に囲まれた生活にあこがれていると言います。この川根本町に当たり前に存在する自然。たとえば秋の燃えるように色づいた木々や、太陽の光が反射してキラキラ光る川面など、この町には「芸術」があふれているんです。そんな川根本町がわたしは好きです。いつかこの地に戻ることができたら、みんなが当たり前と思っているこの自然は、本当は「すばらしいもの」ということを伝えていきたいです。将来ピアノの教室を開いたり、音楽活動が続けていき、そのことを子どもたちに教えていけるような人になりたいと思っています。

誰もが  
笑顔で暮らせるように、  
自分なりにこの地域に  
貢献していきたい

**高**校を卒業してから早いもので2年が過ぎようとしています。わたしは今、JA大井川本川根支店に勤め、主に共済や窓口業務を担当しています。JA大井川は地域とのつながりが強い職場です。またこの町は高齢の方が多いので、必然的に高齢の方と話したり接したりする機会が多くなります。わたしはそんなとき、ふと亡き祖母のことを思い出します。祖母は誰にでも好かれるやさしい人で、いつも笑顔を絶やさず暮らしていた人でした。わたしはそんな祖母のような、誰にでも好かれるやさしい人間になりたいと思っています。いつも地域の皆さんが笑顔を絶やさず暮らしていけるようにお手伝いをし、自分なりにこの地域に貢献していきたいと思っています。

**わ**たしは今、いろいろなことに挑戦することで「自分探し」をしています。たとえばバイク、車、ファッション、昨年からはスノーボードも始めました。小学校から好きだった野球を始めとしたさまざまなスポーツにも挑戦中です。今はまだ、自分が本当にやりたいことが何なのか見つかりません。何にでもトライしてみようという気持ちで毎日過ごしています。

これから悩み苦しむこともたくさんあると思います。でも幸せなことに、わたしには相談に乗ってくれるよき先輩や友人がたくさんいます。この友情の絆をこれからもずっと大切にしていきたいと思っています。

**今**までは「未成年だから」と許されていたことが、これからは「責任」の名の下に許されなくなり。が、その代わりに「与えられる」ものもあります。それは自由と権利です。といっても何もしてもよいのではなく、そこにはやはり「責任」の二文字がついてきます。そのことを自覚し、自由と権利についてしっかりと考えていきたいと思っています。成人の日を迎え今、決意を新たにしています。これから先、どんな困難が待っているとも、それに負けないよう強い信念を持って生きていきたい。今日まで大切に育ててくれた両親や、温かい目で見守ってくれた地域の皆さんに感謝し、自分の道を切り開いていきたいと思っています。

# 羽田 Haneta Minako 美奈子 (梅 高)

埼玉県の武蔵野音楽大学2年生。4歳のころ友人に誘われピアノを始める。中学生のとき、3カ月間ピアノから遠ざかったが、好きな気持ちが忘れられず、再び鍵盤の前に立つ。長期休暇には必ず実家に帰るほど「この町が好き」と美奈子さんは言う。

# 坂野 Sakano Masaki 正記 (徳 山)

JA大井川本川根支店に勤め、主に共済や窓口業務を担当。「地域の人と接することが多い職場。今は仕事ができる喜びと社会人としてのプレッシャーを感じながら毎日過ごしています」と正記さんは話していた。社会人2年目。